

和 白 干 潟 通 信

愛 して、わ じ ろ



No.107

2013年7月9日
発行: 和白干潟を守る会
〒811-0202 福岡市東区和白1-14-37
Tel/Fax.092-606-0012
<http://www14.ocn.ne.jp/~hamasigi/>



和白干潟の観察会のようす

夏休み!

和白干潟の生きものやハマボウを見る会

夏の和白干潟にはカニや生きものたちがいっぱい! 海の広場から唐原川河口を通り、牧の鼻までの海辺を歩きながら観察しましょう。牧の鼻海岸では岩場の生きものたちにも会えますよ! また牧の鼻海岸には黄色いハマボウの花も咲いています。ハマボウの木は今夏はどのくらい大きくなったかな? 何個の花を咲かせているかな? 夏休み、皆で見に行きませんか! 観察のあとは、お掃除もしましょう! 和白干潟は「にほんの里100選」に選ばれ、環境省の「国指定鳥獣保護区」で「ラムサール条約」の登録候補地です。生きものの宝庫の和白干潟を、みんなで守っていきましょう!

・とき : 7月21日(日) 14:00~16:00 ・受付 : 13:45~14:00

・集合 : 和白干潟・海の広場(和白4丁目海岸)
西鉄貝塚線 唐の原駅より徒歩5分 JR和白駅より徒歩8分

・観察場所 : 和白干潟海の広場~牧の鼻海岸

・講師 : 藤井暁彦氏(九州環境管理協会)

・持ち物 : 水筒、軍手、筆記具、あれば ルーペ、双眼鏡

・服装 : 歩きやすい服装、帽子、長袖、長ズボン、長靴
長靴のない方には貸し出しますが、できるだけご持参下さい。

申し込み : 不要 参加費 : 無料 小雨決行



ハマボウ

主催 : 和白干潟保全のつどい(和白干潟を守る会、ウエットランドフォーラム、
循環生活研究所、福岡市港湾局環境対策課)

問合わせ : TEL/FAX:092-944-1543 山之内 E-mail:yamanouchi-y@mub.biglobe.ne.jp

第16期 「和白干潟の自然観察ガイド講習会」を開催しました

(高田 将文)

6月2日「和白干潟の水質や底質を学ぼう！」をテーマに第16期「和白干潟の自然観察ガイド講習会」を開催しました。

はじめに山本代表より、講師の安東先生の紹介がありました。先生は和白干潟を守る会の発足当時からご指導やご助力をいただいている方で、発足後に何度も水質や潮流の学習会講師をしていただいたということもあり、和やかな雰囲気気で始まりました。

水質基準などの解説から水質とは何か、水多消費文化、化学合成物質の製造、開発などの文明も考えていく必要性があることまで幅広く学ぶことができました。また、約10倍に薄めた牛乳によるCOD（化学的酸素要求量）実験では、15という値が出て、台所の排水が案外環境を汚染していることを実証していただきました。

14時過ぎから干潟に移動して、フィールド学習をしました。3地点での水質や底質の測定を実施。海の広場前の2~3mm以下は真っ黒な砂、次の地点のCODは18~20という高い値で、硫化水素の強い臭いがしていました。アシ原近くの砂が堆積した地点のCODは15でした。唐原川河口の水のCODは4というきれい



安東先生

な値を示しました。

その場で人工島から雁の巣にかかる橋を見ながら、人工島建設によって海域が狭まり反射波が来なくなったこと、昔は60の河川が博多湾に流入して土砂を供給していたが、開発などで河川からの砂の供給が減り、また都市人口の増加、文明の進歩で汚染が進んだことなどの説明がありました。

事務所に戻り、先生のまとめでは①海の広場前はかなり汚染がひどかった②アシ原前の砂地はかなりよかった③唐原川はCODが4くらいで、非常によい水とのことでした。

また、現在の和白干潟は砂が固定しているが、人工島がないときは漂砂があり、酸素が供給され干潟もきれいだった、川の護岸のコンクリート化、川の上流の宅地開発などで全体の砂の供給量も減り、百道海域の埋め立てで漂砂の供給は0になった影響は大きい。しかし植物は増えており、植物の回復力や生命力は素晴らしい。自然界は相手がどう変ろうといろいろなものを分解している。人間が快適な暮らしをしたいと開発を続けていくと、汚染された海域が増える。人類文明の影の部分についても考えながら和白干潟を考えていこう、と締めくくられました。(今村)

和白干潟自然観察ガイド育成講座（第1回）をしました

日時：6月8日（土）10:00~12:00

自然観察ガイドの固定化・高齢化に対する一方策として、2013年の活動方針の中に「ガイド養成講座、スキルアップ研修」が打ち出されました。ガイド未経験者を含む観察会関係者9名が集まり、新たに作成した「自然観察ガイド基礎コース」の内容確認と検討を行いました。

内容は、①和白干潟とその役割、②環境教育プログラム、③干潟のはなし、④ガイドとしての基礎知識、⑤ガイドとして心がけること、の5項目です。

参加者の多くは現在自然観察ガイドをしている人で、改めて内容を確認できてよかったそうです。また、鳥のクチバシや餌の捕り方などについて和白干潟に来るミヤコドリやクロツラヘラサギなどの例もあればよい、下水処理場の見学がしてみたい、双眼鏡・望遠鏡の使い方も知りたい、など、ガイドを目指す人たちからも積極的な意見が出されました。(山之内)



観察会のようす

6月3日(月) 香椎保育所さくら組(5歳児) 36名と先生8名

朝から快晴で涼しい風もあり、保育所の子どもたちにとって快適な観察会でした。

木陰で山本さんの干潟の話と紙芝居がありました。望遠鏡は初めて使う子どもたちで、鳥も遠くにいるため探しにくいようでした。干潟ではカニたちが多くいて、子供たちはカニ捕りに夢中になっていました。なかにはハサミの大きなアシハラガニを手で捕まえたり、飛び回るフナムシをつかむ器用な子もいました。オキシジミやアサリも多く、アサリの浄化実験もうまくいきました。



ネムの花

最後に質問がたくさんありました。「なぜ渡り鳥は夏は少ないか?」「カニや鳥たちはなぜ大きさが違うのだろう?」「コメツキガニの腹側はなぜ紫色なのか?」など、素朴な質問ながらよく観察しているのに感心しました。(河上)



クリーン作戦報告

4月27日(土)

「干潟・湿地を守る日2013」「全国春のビーチクリーンアップ2013」参加



参加者：227名、回収ゴミ：142袋。

「2013年干潟・湿地を守る日宣言」をしてから清掃活動を始めました。城東高校の生徒さんや民間企業など沢山の方々に参加され、干潟はきれいになりました。参加者に福岡市のゴミ回収ルールについての話をしました。(田辺)



4月27日(土) 5月25日(土)

「キャノンMJグループ「未来につなぐふるさとプロジェクト」企画



キャノンMJグループはボランティア活動として和白干潟のクリーン作戦に参加し、かつ潮干狩りも楽しもうという企画でした。クリーン作戦後、遠くまで引いた干潟を歩き、波打ち際でアサリの手掘りを体験しました。たくさんのアサリとともに、アカニシ・サルボウガイ、ワタリガニなども見つけました。海水の浄化実験も短時間でクリアな水に変化し、アサリの浄化力を証明できました。楽しい体験が干潟を守るという行動につながっていくことを期待します。(今村)

6月16日(日)「ラブアースクリーンアップ2013」参加

晴天の下、9時から11時までラブアースクリーンアップが行われました。回収ゴミは4種類に分け全部で126袋でした。中でも特に多かったのが燃えるゴミで、アオサ、枯れ葉など88袋、ペットボトルなどのプラスチックゴミが27袋でした。

J A福岡東部、福工大付属城東高校生、さくら日本語学院のベトナム人留学生、守る会、一般市民など285人が参加しました。皆さんの力で浜辺はきれいになりました。

また若者の環境意識の高まりは頼もしく思えました。

(松田、山之内)



アシ (ヨシ) (イネ科)

河岸や池沼・海岸などの湿地に群生する大型の多年草。太い根茎が地中をはいまわり、高さ1～3mの茎を立てます。葉の先はとがり、途中から垂れ下がったりしています。和白干潟沿岸では塩水につかるため、アシには過酷な環境なのでしょう。海に近い方が小さくなっており、アシ原の奥に行くにしたがって大きく育っていますが、2mくらいまでの背丈です。淡水の河岸や池沼のようには大きくなりません。早春の和白干潟沿岸では、枯れたアシのそばから角が立って芽吹きが始まります。初夏にはアシはどんどん大きく育ち、6月にはアシ原はもうすっかり藪になります。緑のアシの藪をかき分けながら進むと、アシに吹く風がさわやかです。夏は花期で、淡紫色の穂が付きます。アシの根本には大きなカニの穴が開いており、アシハラガニやクロベンケイガニ・ハマガニなどが棲んでいます。オカミミガイも棲んでいます。



アシ (ヨシ)

ウミナナ (ウミナナ科) 殻長3cm。準絶滅危惧種 (NT)



ウミナナとホソウミナナ

日本全国の内湾干潟や河口に生息する巻貝。東京湾などで生息地が減少し、絶滅が危惧されています。殻は中ぶくれで、いっしょにいるホソウミナナと区別できます。ホソウミナナはウミナナよりも細めで外洋性だそうですが、和白干潟ではいっしょに生息しています。潮が引くと殻から頭を出して、干潟の表面の珪藻を食べながら這います。ウミナナが通った跡には、きれいな曲線が描かれます。殻にツボミガイの飾りをつけているウミナナもあります。冬期は個体数が減少しますが、夏期には無数のウミナナ類が干潟を覆うほどに多くなります。ウミナナとホソウミナナの発生の様子は違っており、ウミナナは幼生期にはプランクトンで沖合を漂ってくるそうです。ホソウミナナは干潟で直接小さな貝の形で生まれるそうです。さらに同じ貝の殻でも、ヤドカリが入った貝もあります。ヤドカリは動きが早く、水たまりを走り回っているのすぐわかります。

ハクセキレイ (セキレイ科) 全長21cm。

ユーラシア大陸で広く繁殖。海岸や河口の砂地、水田、畑などの低地の水辺に多く、水辺を離れた市街地でも見られます。和白干潟沿岸でも繁殖しているようで、夏期には顔が黄色い若鳥も見られます。堤防の道を親子でじゃれ合う姿が観察できます。尾羽を上下に振りながら歩きます。地上にいる昆虫類や水中の水生昆虫類を採食しています。やや長距離を飛ぶ時には波上飛行になります。和白干潟沿岸の砂浜や堤防の道で、良く見かける鳥です。チュチュン、チュイチャーなどと飛び立つ時に良く鳴きます。今夏は個体数が少ないように感じます。



ハクセキレイ

★夏の和白干潟のしぜん情報★

- アシ原：**アシは丈高く伸びて深い藪になります。ハマニンニクがアシ原の道に沿って広がってきました。ハマウドが大きく伸びて花をつけています。ハマゴウが青い花を咲かせています。牧の鼻の海岸ではハマボウの黄色い花がたくさん咲きます。幼株も増えています。
- 干 潟：**コメツキガニが個体数を増やして、放浪集団が復活しました。浅瀬ではマメコブシガニが散歩。タマシキゴカイの巣の上に渦巻きのフンが見られます。石の下にケフサイソガニ。アシ原付近ではアシハラガニやクロベンケイガニ。和白川河口ではハクセンシオマネキの大きな集団生息地ができています。夏の和白干潟は小さな生き物たちの命がいっぱいです。
- 水 鳥：**夏鳥として渡ってきたコチドリやコアジサシ・オオヨシキリなどが繁殖しています。ダイサギ、コサギ、アオサギなどが夏羽の美しい飾り羽をまとっています。今夏も6月11日現在、ミヤコドリの若鳥が2羽残っています。越夏するかもしれませんね！

和白干潟「鳥獣保護区」継続手続きへ

環境省は「国指定和白干潟鳥獣保護区」が10月で期限切れになることから、3月には地元説明会（塩浜農家やJA対象）を開きましたが、ラムサール条約登録を見据えた「特別保護地区」への格上げは地元の同意が十分でないとして見送り、「国指定和白干潟鳥獣保護区」の継続延長ということになりそうです。秋には国の中央環境審議会に諮問されますが、その前に意見募集や公聴会が開催される予定です。反対意見の野鳥の食害は具体的根拠が示されておらず、「参加メンバーの地元住民には、農業者だけでなく、野鳥の会や干潟保全などの環境団体を加えるべきではないか」という守る会からの質問に対して、「地元説明会ではそのような意見は出なかった」という回答しかありませんでした。市民参加の道を開かない限り、実際に干潟を守っている関係者の声は反映されないのでしょうか。

和白干潟のラムサール条約登録めざし
街頭署名活動始まる

和白干潟を守る会は、5月からラムサール条約登録を目指す街頭署名活動を始めました。もっと地元の方々に知ってもらおうと、毎月1回東区で取り組みます。初めての街頭署名では、和白干潟を知っている人も多く、高校生や大学生が積極的に署名に応じてくれました。12月議会までに目標2万名としていますが、さらにご協力よろしくお願ひします。



佐賀市東与賀海岸、
ラムサール条約登録目指す

佐賀市は6月10日東与賀海岸のラムサール条約登録を目指す研究に着手する考えを明らかにしました。農漁業者、地元住民、県などと合意すれば2015年の国際会議に向け正式に検討することです。東与賀海岸は環境省モニタリング調査(11年冬季)でシギ・チドリ類が6521羽で日本一でした。昨年、守る会山本代表が佐賀市で講演して、東与賀海岸の鳥類の豊かさを絶賛し、ラムサール条約登録を目指すよう勧めたことが一つのきっかけになったかもしれません。



「唐原川お掃除し隊」に参加

山・川・海の流域会議の企画で5月18日(土)に唐原川の清掃活動を行いました。下原公民館付近から西鉄貝塚線・浜田橋付近までを3グループに分かれて行い、93名が参加し、94袋のゴミを回収しました。和白干潟を守る会のグループは外輪崎橋付近を清掃しました。川の中は、アシ原に隠れてポイ捨てされたビニール袋やペットボトル、空き缶が大量に見つかり、川底に沈んだ自転車を鉤付きロープに引っ掛けて引き上げるなど、粗大ゴミを協力して除去しました。清掃中にシギやサギ、魚、カエル、カメ、カニなどの生物をよく見かけました。これらの生物にとって良い環境をつくる一助になればと思います。唐原川のゴミは、大雨の後に和白干潟に流れ着きます。唐原川のゴミが拾えて大変嬉しく思いました。(池田)



助成金ありがとうございます!大切にに使わせていただきます!

3/28 「キャノンマーケティングジャパンKK」自販機による「ゆび募金」から寄付金をいただきました

気が付いたらあなたも電話してください!

海辺のゴミやアオサをとってほしい時・自分でゴミを拾った時

092-282-7145 (港湾局維持課)

092-674-4605 (博多港埠頭KK)

沖のアオサをとってほしい時

092-282-7153 (港湾局環境対策課)



** お 願 い **

干潟でのゴルフやラジコンの練習はやめましょう!

とても危険です。

干潟や堤防でゴミを燃やすのはやめましょう!

(ダイオキシン発生防止、ゴミの野焼き禁止)

犬のフンの始末は飼い主がしましょう!

弱った野鳥を見つけた時

092-513-5611

福岡県筑紫保健福祉環境事務所(地域環境課)

092-643-3367

福岡県環境部自然環境課野生生物係



●2013年3月

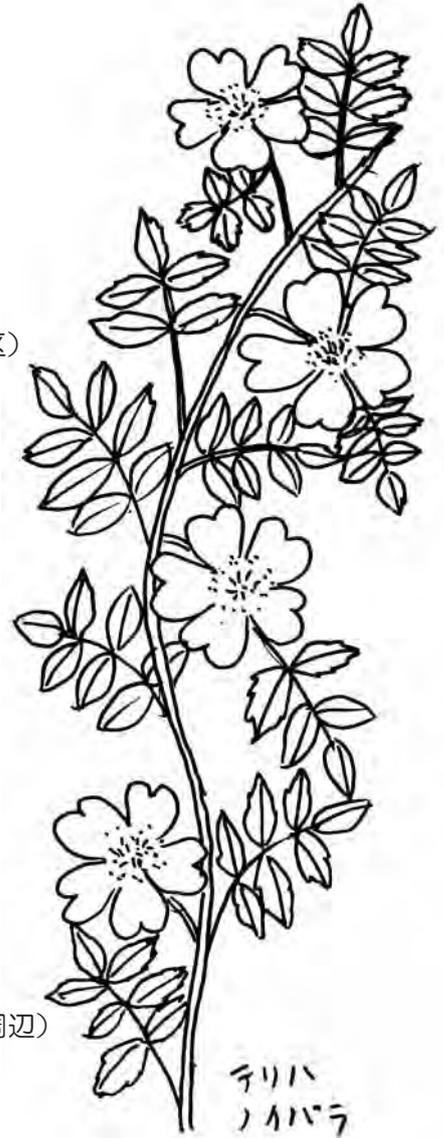
- 3/4 (月) 和白干潟通信106号編集会議
- 3/8 (金) あすみん「地域とNPOとの交流会」参加
- 3/9 (土) 「山・川・海の流域会議」参加
- 3/10 (日) 和白海岸探鳥会(日本野鳥の会)
- 3/11 (月) イオン黄色いレシートキャンペーン
- 3/13 (水) あすみん「企業とNPOの交流会」参加
- 3/14 (木) 「和白干潟保全のつどい」会議参加
- 3/23 (土) 定例会議・和白干潟クリーン作戦と自然観察
- 3/26 (火) 和白干潟通信106号編集会議

●2013年4月

- 4/6 (土) 2013年度日本湿地ネットワーク総会参加(福岡市東区)
講演会「日本の湿地を守ろう！」(福岡市東区)
- 4/7 (日) 日本湿地ネットワーク講演会関係者の和白干潟見学会
2013年春期シギ・チドリ調査1回目(今津)
- 4/9 (火) 干潟通信106号発送会
- 4/10 (水) イオン黄色いレシートキャンペーン
- 4/11 (木) イオン黄色いレシートキャンペーン
「和白干潟保全のつどい」会議参加
- 4/14 (日) 和白海岸探鳥会(日本野鳥の会)
- 4/20 (土) 2013年春期シギ・チドリ調査2回目(今津)
- 4/23 (火) 2013年春期シギ・チドリ調査1回目(博多湾東部)
- 4/24 (水) 観察会グループ会議
- 4/27 (土) 定例会議・和白干潟クリーン作戦と自然観察

●2013年5月

- 5/5 (日) 2013年春期シギ・チドリ調査3回目(今津)
- 5/6 (月) 2013年春期シギ・チドリ調査2回目(博多湾東部)
- 5/9 (木) 「和白干潟保全のつどい」会議参加
- 5/11 (土) 「山・川・海の流域会議」参加
イオン黄色いレシートキャンペーン
- 5/12 (日) 和白海岸探鳥会(日本野鳥の会)
- 5/13 (月) 観察会案内状発送会
和白干潟のラムサール条約登録街頭署名活動(香椎駅周辺)
- 5/18 (土) 唐原川清掃活動「唐原川お掃除し隊」参加
- 5/21 (火) 2013年春期シギ・チドリ調査3回目(博多湾東部)
- 5/25 (土) 定例会議・和白干潟クリーン作戦と自然観察
- 5/31 (金) あすみん「ボランティア入門講座」参加



干潟のつばやき 「コメツキガニくんがんばってね！」

コメツキガニは甲幅1cmほどの小さなカニです。からだは丸っこくて薄く、背面の体色は灰色・褐色の地に黒や白の小さな斑点があり、腹面やはさみの先端は赤紫色を帯びています。春から夏には、オスが背伸びをして両方のはさみを振り下ろすウェービングという求愛行動がみられ、この行動が臼と杵で米をつく動作に似ていることからこの名前がついたとか。食物は砂の表面の珪藻などの有機物で、自分の足元の砂をはさみでつまんで口に入れ、砂粒の表面から餌をより分けて食べます。残りの砂は口の上で丸く固め、はさみで切り取って足元に捨てるので、巣穴の周りには数ミリの砂団子が無数にできます。このコメツキガニは昔は和白干潟一面にいたものですが、近年環境の悪化や釣り餌のための乱獲で数をへらしていました。しかし2~3年前から海の広場前の砂浜でも多く見られるようになりました。アシ原前の砂州や和白川河口など、和白干潟全体でも増えているようです。干潟をきれいにしてくれるコメツキガニを、大事にしてほしいですね。(山之内)



2013年度日本湿地ネットワーク(JAWAN)総会と講演会開催 (山之内 芳晴)

「和白干潟のラムサール条約登録の早期実現を求める決議」を採択！！



4月6日(土)福岡市東区の和白地域交流センターでJAWAN総会が開催されました。午前中は2012年度事業報告と決算報告、2013年度事業計画と予算案の承認後、「和白干潟のラムサール条約登録の早期実現を求める決議」が採択されました。

午後からは講演会「日本の湿地を守ろう！」が開催され、約50名が参加しました。講演会では、守る会の山本代表の「和白干潟のラムサール条約登録を目指して」があった後、鹿児島大学教授佐藤正典氏の「干潟・湿地の重要性と生物多様性」、釧路公立大学教授小林聡史氏の「ラムサール条約入門～和白干潟を条約湿地に指定するとどうなるか～」、NPO法人ウエットランド中池見理事長笹木智恵子氏の「中池見湿地がラムサール条約に登録されるまでの道のり」などの講演がありました。

続いて、各地の報告(吉野川河口干潟、東京湾三番瀬、藤前干潟、有明海諫早湾、今津干潟、曾根干潟)と意見交換が行われ、最後に山本代表が「和白干潟のラムサール条約登録の早期実現を求める決議」を読み上げ、参加者からの満場の拍手をもって講演会は終了しました。



翌日には和白干潟見学会があり、佐藤先生が干潟を掘り底生動物を取り出して、コケゴカイやチロリなどのゴカイの説明がありました。アシナガゴカイという外来種もいるそうです。ゴカイも種類が豊富なことに感心しました。その後きりえ館で、全国の参加者と交流会ができました。

JAWANは4月9日付で、「和白干潟のラムサール条約登録の早期実現を求める要望書」を、環境大臣と福岡県知事、福岡市長に提出しました。和白干潟を守る会からも「和白干潟のラムサール条約登録の早期実現を求める決議」を環境大臣と福岡県知事、福岡市長に郵送しました。

和白干潟のラムサール条約登録の早期実現を求める決議

日本湿地ネットワークは、福岡県福岡市「和白干潟」がラムサール条約登録湿地として早急に国際的に保全されるべき重要な湿地であると考えます。

日本湿地ネットワークは、和白干潟のラムサール条約登録の早期実現を促進するため、環境省、福岡県、福岡市に全力で取り組むことを求めます。

2013年4月6日 日本湿地ネットワーク総会参加者一同

守る会問い合わせ窓口 ホームページ:<http://www14.ocn.ne.jp/~hamasigi/>

入会 / 観察会(申込等)・・・山之内 芳晴 Tel/Fax. 092-944-1543
クリーン作戦……………田辺 スミ子 Tel. 090-1346-0460
会費……………田中 貞子 Tel/Fax. 092-606-5588
広報 / 調査 / 定例会議…山本 廣子 Tel/Fax. 092-606-0012
干潟まつり……………今村 恵美子 Tel/Fax. 092-942-5282



【編集】 高田 将文・山本廣子・山之内芳晴・田辺スミ子・今村恵美子
《カット》くすだひろこ 次号は2013年10月に発行予定

【編集後記】 ガイド講習会の講師においでいただいた安東先生には、20年ぶりにお目にかかりました。かつて人工島建設による海面の埋め立てで水質や底質など環境面の悪化を指摘されていたことが現実となっています。自然は壊したら二度と戻らないことを実感しています。そのことを多くの人に伝えていくことも私たちの大切な活動です。(今村恵美子)

お知らせコーナー

国際ビーチクリーンアップ参加の ゴミデータ調査をします！

世界中で一斉に実施される環境保護キャンペーン。海岸のゴミを集め「どんなものがどれだけあったか」を調べます。ぜひご参加ください！

開催日時 9月28日(土) 15:00~17:00(小雨決行)
集合場所 和白干潟・海の広場



昨年度の国際ビーチクリーンアップ

キヤノン「未来につなぐふるさとプロジェクト」
「クリック募金」実施中！ 1/29より12/13まで

守る会のホームページかキヤノンのHPから
<http://cweb.canon.jp/csr/donation/index.html>

ぜひ「福岡県」の「和白干潟を守る会」に毎日
1クリックをお願いします！
各地域へ1円の寄付と同時に、東日本大震災の被災地の6 NGOに1円を均等配分されます。

和白干潟のエコチャレンジ “アオサのお掃除大作戦”

日時：9/21(土)、10/6(日)、
10/19(土) いずれも14:30~16:00
集合：和白干潟・海の広場

長靴をはいてきてね！

主催：和白干潟保全のつどい

問い合わせ：

Tel/Fax.092-944-1543(山之内)



定例スケジュール

定例会議(7/27、8/24、9/28)

毎月第4土曜日10時半~13時 守る会事務所にて開催
以下は参加自由です。仲間が待ってます！

クリーン作戦と自然観察(7/27、8/24、9/28)

毎月第4土曜日15時~17時 和白干潟・海の広場集合
長靴があると便利 駐車場なし

和白海岸探鳥会(7/14、8/11、9/8)

毎月第2日曜日 9時~12時 JR和白駅前公園集合
主催：日本野鳥の会福岡支部 参加費：一般は300円、中学生以下は無料 駐車場なし



会員募集中！

年会費 個人 2,000円
団体 5,000円

カンパの協力お願い
郵便振替01720-4-23860
和白干潟を守る会

ボランティアへのお誘い

和白干潟を守る会のボランティア活動に参加して、新たな自分を見つけませんか？あなたの経験や知識や技術が、きっと活かされますよ！

和白干潟の鳥たち(その63)

コサギ (サギ科 Little Egret) 小鷺 [全長約61cm]

一年中くちばしが黒く、足指が黄色いシラサギ類です。熱帯から温帯で広く繁殖し、日本でも留鳥として繁殖しているところが多いです。川、水田、干潟などの水辺で生活しています。夏羽では後頭から2本の長い冠羽と、背に先がカールした飾り羽が出ます。水中で足を震わせて魚を物陰から追い出し、それをくちばしでとったりして、とても活動的です。和白干潟では近年コサギが減少しているように思います。サギ類全体も減少しているように感じます。10年くらい前までは夏期の和白干潟に300羽以上ものダイサギやアオサギが並んで立っていたり、魚をとる姿が見られましたが、最近では多くても50羽くらいです。その中に少数のコサギが混じっています。コサギやダイサギの夏羽は水の青にもアシの緑にも、よく映えて美しいです。(山本 廣子)



(写真撮影：三宅 僚)